

女川原子力発電所環境放射能調査結果（四半期報及び年度報）報告時の 錯誤防止のための対策について

1 経緯

令和 6 年度女川原子力発電所環境放射能調査結果（年度報）の取りまとめ過程において、各四半期の報告内容に記載の誤りが認められたことから、再発防止対策について検討したので報告するもの。

【参考】第 173 回女川原子力発電所環境保全監視協議会において報告した内容
マガキ及びアラメの Cs-137 濃度推移グラフにおける一部測定地点の未表示

2 錯誤要因及びその再発防止対策

錯誤の要因は、濃度推移グラフの作成時において問題があったと考察し、その具体的な内容と再発防止対策を以下のとおりまとめた。

錯誤要因	再発防止対策
濃度推移グラフの作成に使用する入力ファイルやデータシートが複数に分散	データ入力のファイルやシートを一本化するとともに、シート内の入力項目及び内容を統一化し、データ入力からグラフ作成までの一連の流れを明確化
測定データの入力方法やグラフの作成手順、欠測時の処理方法等、統一的な運用ルールが未制定	グラフの作成及び修正等、一連の手順を明文化
グラフ中のプロットに対する確認体制が不十分	入力シート上にチェックポイントを設け、確認すべき事項を明示し、グラフ等の不備を未然に防止
担当者間での引継や共有が不十分	上記対策を実施して、担当者に依存しない体制を整備するとともに、所内における共有を徹底

3 組織内の体制の強化

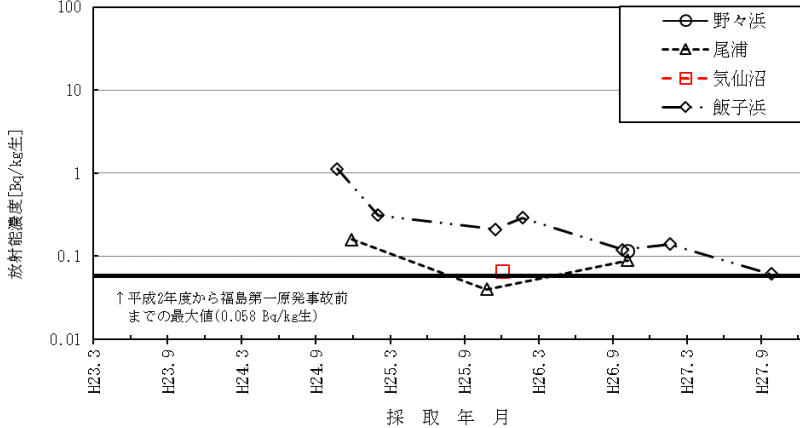
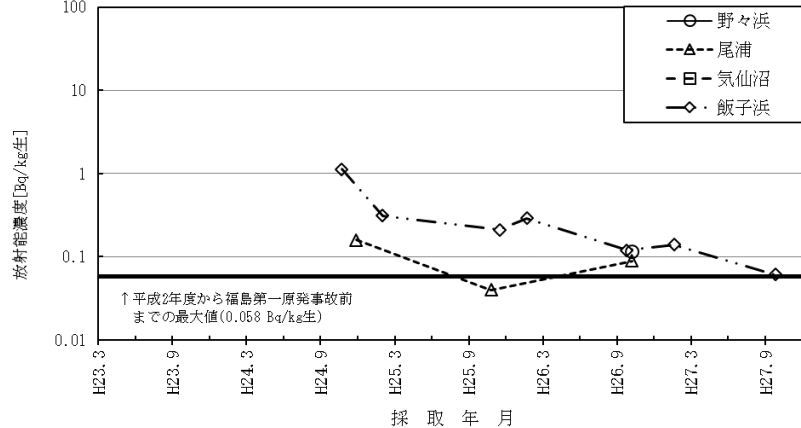
- ・ 錯誤時やヒヤリハット発生時の記録・共有を徹底させるため、所内にヒヤリハット対応担当者を設置し、事案の記録及び周知並びに改善策の検討を一元的に行う体制を整備
- ・ 改善策の検討体系を整備するため、過去の報告の誤りや漏れ等も含めたヒヤリハット事例は、覚知した都度、所内で共有するとともに、データベースに蓄積し、定期的な確認を実施
- ・ 組織としての管理体制を強化させるため、確認フロー及び役割分担を明確に規定し、関連する研修を実施

4 今後の取組

- ・ 本報告書に基づく再発防止対策については、定期的かつ継続的に運用状況を確認しながら、着実に実行するとともに、関連する知見を組織として蓄積しつつ、担当者間の円滑な引継ぎ体制を確実に維持していく。
- ・ 環境放射線及び環境放射能測定に係る一連のデータ管理及び報告書の作成に当たり、錯誤を防止するために、不断の改善を進めていく。

(1) マガキの Cs-137 濃度の推移

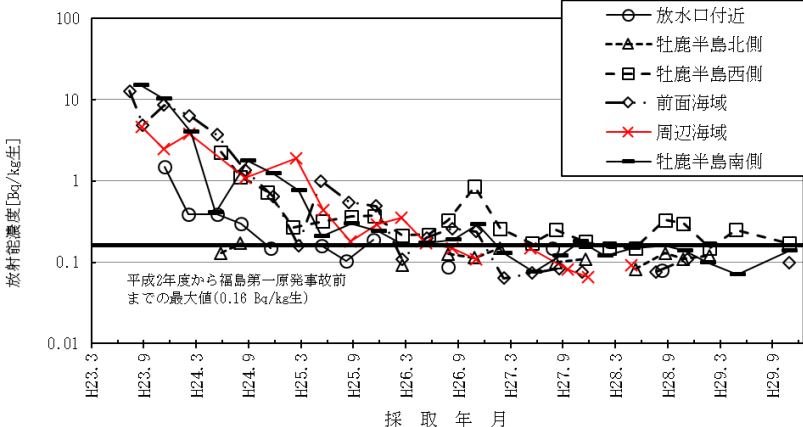
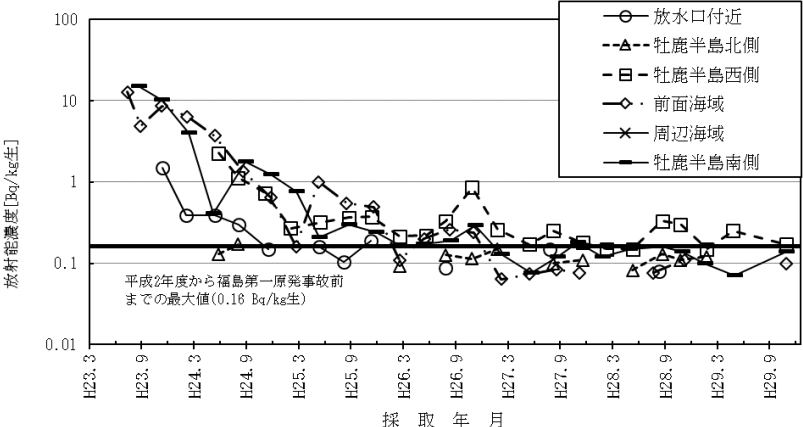
・平成 27 年度第 3 四半期報 22 ページ 図-2-23

正	誤	備考
<div><p>放射能濃度[Bq/kg生]</p><p>採取年月</p><p>↑平成2年度から福島第一原発事故前までの最大値(0.058 Bq/kg生)</p></div> <p>図-2-23 カキのCs-137濃度の推移</p>	<div><p>放射能濃度[Bq/kg生]</p><p>採取年月</p><p>↑平成2年度から福島第一原発事故前までの最大値(0.058 Bq/kg生)</p></div> <p>図-2-23 カキのCs-137濃度の推移</p>	気仙沼を表示するものの。

(2) アラメの Cs-137 濃度の推移

ア 周辺海域のみ

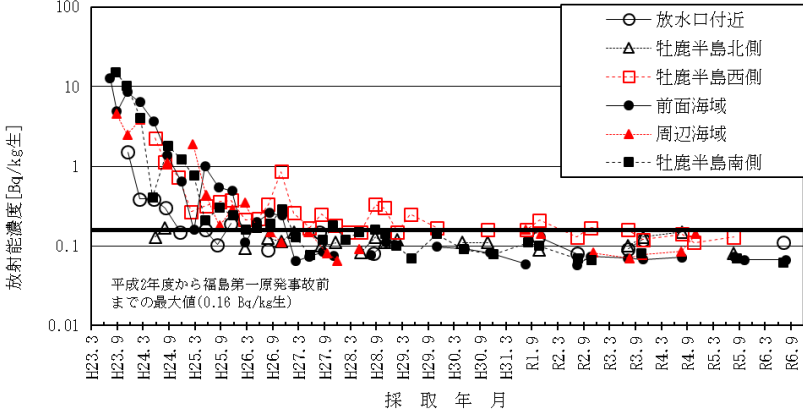
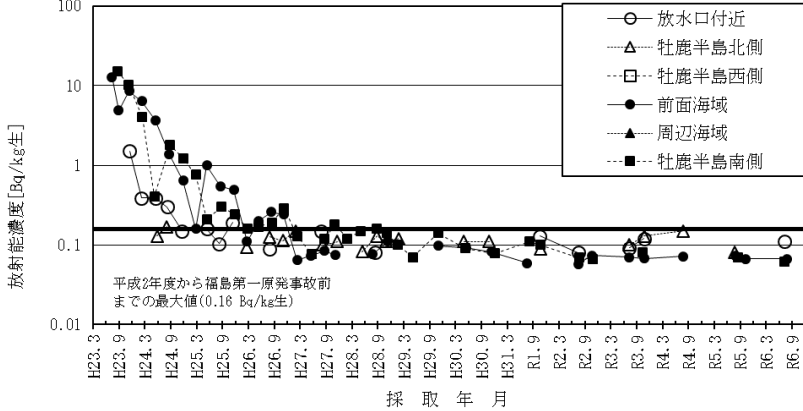
・平成29年度第3四半期報 23ページ 図-2-26

正	誤	備考
 <p>図-2-26 アラメのCs-137濃度の推移</p>	 <p>図-2-26 アラメのCs-137濃度の推移</p>	周辺海域を 表示するも の。

※平成28年度第2四半期報 23ページ 図-2-24、平成28年度第3四半期報 23ページ 図-2-26、
平成28年度第4四半期報 21ページ 図-2-20、平成28年度報 21ページ 図-20
平成29年度第1四半期報 21ページ 図-2-20も同様。

イ 牡鹿半島西側及び周辺海域

・令和6年度第3四半期報 25ページ 図-2-30

正	誤	備考
 <p>図-2-30 アラメのCs-137濃度の推移</p>	 <p>図-2-30 アラメのCs-137濃度の推移</p>	牡鹿半島西側及び周辺海域を表示するもの。

※令和5年度第3四半期報 25ページ 図-2-30、令和6年度第2四半期報 24ページ 図-2-27も同様